

キャリア教育新聞

No.20

2026年 9月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

高校生から学ぶ、探究のかたち

～広陵中学校×東京都市大学塩尻高校～

八月、広陵中学校三年生の「探究的な学習の時間」に、東京都市大学塩尻高等学校（以下、都市大塩尻高校）三年生が訪れ、自身の探究活動を紹介した。広陵中学校では現在、複数のテーマで探究が進められており、その一つが「地域ブランドを創造する」というテーマだ。塩尻特産の農産物や、これまで捨てられていたものを生かしながら、地域ならではの新しい商品を生み出そうとする取り組みで、まずは「自分たちがほしいもの、つくりたいものをつくってみよう」という思いから始まった。様々なアイデアが出ているが、そこからどのように問いを深め、探究的な学びへとつなげていくかが課題となっていた。

この日、都市大塩尻高校の生徒がお話したのは、昨年度、みらい探究アワードで発表した「昆虫食」をテーマにした探究だ。食糧危機に備え、次世代のタンパク質源として注目される昆虫食を、どうしたらおいしく食べられるのかという問いから始まり、試作と検証を重ねながら探究を進めていった過程を、中学生に語った。

こうした「先輩から学ぶ」機会がもたらす意義は大きい。探究の学びでは、なぜやるのか、やってみて何が分かったのか、次に何を試すのかという、問いと実践を繰り返しながら学びを深めていくことが大切である。実際に探究を経験した先輩の話が、生徒たちにとって自分たちの活動を一歩進めるヒントになったのではないだろうか。また、高校生の姿に触れることで、「高校生になったら、こんなことをやってみたい」と、今回の出会いが、生徒たちのやってみてみたいをさらに膨らませていくことを期待したい。



当日の授業の様子（広陵中学校）



生徒の声

探究の活動で大人や企業の方に相談していったことで、より実現に近づいたということがわかりました。私たちも、いろんな方に頼って地域の魅力を発信できるような商品をつくれるように頑張ります。



生徒の声

高校生に来ていただいて、活動するときに重要なのは、ただ作るだけでなく反省や課題を持つことだとわかりました。作ったスイーツを先生や友達に食べてもらって感想を聞くことも大切だと思いました。

ちょこっと探究コラム

その問い、調べて終わりにしてない？

「なぜ？」から始まった探究。調べて、アンケートをして、結果をまとめて……。でも探究は、答えを見つけて、終わりがゴールではない。調べた結果、最初の考えはどう変わっただろうか。

例えば、どうして学校のゴミが減らないんだろう？と考えたとき。調べると、分別の方法を知らない人が多いことがわかった。ところが実際に聞くと、「知っているけど面倒だからやらない」という声のほうが多かった。すると問いは変わる。なぜ減らない？から「どうやったらみんなが分別できるようにするのか」へ。

この問いが変わる瞬間こそ、探究が深まったサイン。調べることは答えを集めるためだけでなく、自分の問いをもっとおもしろい問いに育てる過程でもある。「調べたら、問いが変わっちゃった」——それは、むしろいい探究の証かもしれない。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）



塩尻市中央公民館長
青 柳

塩尻市中央公民館長の青柳です。中央公民館では、夏休みに子ども向けの「サマースクール公民館」を開催しています。

共創共学プラットフォームメンバー紹介